

新たな時代に対応した安全・安心な交通環境の整備

～ 持続可能で暮らしやすい都市形成を担うITSと関連する諸施策の推進 ～

基本的な考え方

地球温暖化防止・循環型社会の構築など環境問題への対応、災害に強いしなやかな国土の形成、高齢社会の到来による生活空間の安全確保などが求められる中において、安全で円滑な道路交通は、国民生活と経済の基礎をなす重要な国土の基盤であるという認識のもと、交通事故防止対策等を中心とした交通管理の観点から、快適な交通環境を実現する新交通管理システム(UTMS)の整備を中心に関連諸施策を推進し、これらの諸課題に対応していく。

ITSの目的

道路交通における安全と円滑を図り、交通公害の防止という目的を達成し、安全・快適にして環境負荷の低い交通社会の実現を図ること

ITSの活用

安全・快適にして環境負荷の低い交通社会を実現するUTMSの効果が十分に発揮されるように光ビーコン等の基盤を拡充し、交通情報提供システム、安全運転支援システム、現場急行支援システム、公共車両優先システム等の整備をさらに推進する。

環境への対応

交通管制センターの高度化等交通安全施設の整備等の交通流対策を推進することにより交通渋滞を緩和して道路交通に起因する公害の低減を図るとともに、地球温暖化対策を推進する。

災害等への対応

災害発生時に、交通状況を迅速に把握し、緊急交通路の確保、一般車両の被災地への流入の抑制、迂回情報の提供を行うため、交通監視用カメラ、交通情報板、信号機の非常電源装置等を整備する。

高齢社会への対応

高齢者が交通量の多い道路でも安全に横断できるよう、バリアフリー対応型信号機の整備を推進する。また、高齢者の運転環境を整備するため、信号灯器のLED化、道路標識の高輝度化等を推進する。

